

もも・ネクタリン特報

生育は平年よりも3～5日進んでいる状況ですので、防除並びに管理作業は遅れないよう実施しましょう。

病害では、せん孔細菌病の発生が心配されます。せん孔細菌病防除は、梅雨明けまでが重要防除時期となりますので、今回の散布以降は、散布間隔10日以内を厳守し、併せて春型枝病斑の除去を実施しましょう。

【開花状況】白鳳（調査地点：平岡） ＊参考 日野地区 開花4／14

年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	平年
開花	4/24	4/28	4/17	4/20	4/13	4/23	4/28	4/26	4/18	4/23	4/18	4/22

地域・品種によって生育差がありますので、園地の生育状況をよく確認しましょう！

第3回 定期防除

⇒他作物へ飛散しないよう十分注意してください。訪花昆虫保護のため早朝散布とする。

（今回の散布以降、せん孔細菌病対策として6月上旬の防除まで散布間隔10日以内を厳守する）

もも

・ ・ 散布時期：落花後（4月30日～5月5日）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 10ml
フェニックスフロアブル 25ml（前日、2回）
トレノックスフロアブル 200ml（7日前、5回）
アグレプト水和剤 100g（60日前、2回）

散布日	月	日
散布量		リットル

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、モモハモグリガ、ハマキムシ類、（コスカシバ）

10a 当り散布量： 350ℓ

【注意事項】

①アグレプト水和剤、アグリマイシンー100、ストマイ液剤等の使用回数は、合計で年間2回までとする。尚、ぶどうにかかる
と種無し果を生じるので、隣接園は注意する。

②アグリマイシンー100に代えて、アグレプト水和剤、ストマイ液剤20の1,000倍（60日前、2回）でもよい。

③アブラムシ類の発生園は、ウララDFの2,000倍（14日前、2回）を加用散布する。

ネクタリン

・ ・ 散布時期：落花後（4月29日～5月4日）

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤 10ml
フェニックスフロアブル 25ml（前日、2回）
トレノックスフロアブル 200ml（30日前、5回）
マイコシールド 66g（28日前、5回）

散布日	月	日
散布量		リットル

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、モモハモグリガ、ハマキムシ類、シンクイムシ類、（コスカシバ）

10a 当り散布量： 350ℓ

【注意事項】もも・ネクタリン混植園では、ネクタリンの防除を行なう

①アグレプト水和剤・アグリマイシンー100はネクタリンに登録がないため使用しない。

②アブラムシ類の発生が見られる場合は、ウララDFの2,000倍（7日前、2回）を加用散布する。

裏面には次回防除が掲載されております。必ずご覧ください

第4回 定期防除

第3回防除は表面に記載されています。
お間違いのないようご注意ください。

⇒他作物へ飛散しないよう十分注意してください。訪花昆虫保護のため早朝散布とする。

も も

・ ・ 散布時期：第3回散布から10日以内（5月10日～5月15日）

散布薬剤： 水	100%
展着剤	10ml
ストロビードライフフロアブル	50g（前日、3回）
モスピラン顆粒水溶剤	25g（前日、3回）
アグリマイシンー100	66g（60日前、2回）

散布日	月	日
散布量		リットル

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、うどんこ病、モモハモグリガ、アブラムシ類、シンクイムシ類

10a 当り散布量： 400%

【注意事項】

- ①アグレプト水和剤、アグリマイシンー100、ストマイ液剤等の使用回数は、合計で年間2回までとする。尚、ぶどうにかかると種無し果を生じるので、隣接園は注意する。
- ②アグリマイシンー100に代えて、アグレプト水和剤、ストマイ液剤20の1,000倍(60日前、2回)でもよい。
- ③うどんこ病の発生が心配されない場合は、ストロビーDFに代えて、トレノックスフロアブルの500倍(7日前、5回)でもよい。
- ④(カイガラムシ類)の発生園は、アブロードフロアブルの1,000倍(14日前、3回)を加用散布する

ネクタリン

・ ・ 散布時期：第3回散布から10日以内（5月9日～5月14日）

散布薬剤： 水	100%
展着剤	10ml
トレノックスフロアブル	200ml（30日前、5回）
モスピラン顆粒水溶剤	25g（3日前、3回）
マイコシールド	66g（28日前、5回）

散布日	月	日
散布量		リットル

対象病害虫：せん孔細菌病、黒星病、灰星病、アブラムシ類、モモハモグリガ、シンクイムシ類、カメムシ類

10a 当り散布量： 400%

【注意事項】 もも・ネクタリン混植園では、ネクタリンの防除を行なう

- ①アグレプト水和剤・アグリマイシンー100等はネクタリンに登録がないため使用しない。
- ②(カイガラムシ類)の発生園は、アブロードフロアブルの1,000倍(7日前、2回)を加用散布する。

もも うどんこ病



果実では5月頃からの幼果期に、始めは果実表面の一部に直径数mmの白い粉をまぶしたような円形の病斑を形成し、のちに果実肥大とともに3～4cmに拡大する。5月が乾燥傾向の年に発生多い。